

資料5－別添1

(提案1)

【幹事会附置委員会】

○委員の決定（新規1件）

（東日本大震災復興支援委員会 原子力発電所事故に伴う健康影響評価と国民の健康管理並びに医療のあり方検討分科会）

氏名	所属・職名	備考	推薦等
池田 眞朗	慶應義塾大学大学院法務研究科教授	第一部会員	第一部
小森田秋夫	神奈川大学法学部教授	第一部会員	第一部
杉田 敦	法政大学法学部教授	第一部会員	第一部
春日 文子	国立医薬品食品衛生研究所安全情報部長	副会長・第二部会員	会長
樋口 輝彦	独立行政法人国立精神・神経医療研究センター理事長・総長	第二部会員	第二部
山下 俊一	長崎大学理事・副学長	第二部会員	第二部
米倉 義晴	独立行政法人放射線医学総合研究所理事長	第二部会員	第二部
大西 隆	東京大学名誉教授、豊橋技術科学大学学長	会長・第三部会員	-
瀬戸 暁一	総合南東北病院口腔がん治療センター長	連携会員	第二部
安村 誠司	福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座教授	連携会員	第二部

大塚 孝治	東京大学大学院理学系研究科物理学専攻教授	連携会員	第三部
柴田 徳思	公益社団法人日本アイソトープ協会常務理事	連携会員	第三部

(提案2)

【機能別委員会】

○委員の決定（追加1件）

（選考委員会 人文・社会科学選考分科会）

氏名	所属・職名	備考
河田 潤一	神戸学院大学法学部教授	第一部会員

(参考)

●選考委員会運営要綱 (抄)

平成17年10月4日
日本学術会議第1回幹事会決定

最終改正：平成25年10月25日日本学術会議第182回幹事会決定

(組織)

第1 選考委員会（以下「委員会」という。）は、会長、副会長及び各部の4名（うち1名は役員とする。）以内の会員をもって組織する。

(分科会)

第2 委員会に、次の表のとおり分科会を置く。

分科会	調査審議事項	構成
連携会員特別選考分科会	平成26年9月30日に任期が満了する会員に係る連携会員候補者の選考に関すること	委員会の委員のうち、平成26年9月30日までに会員を退任する又は会員としての任期が満了する委員以外の者
人文・社会科学選考分科会	平成26年10月の改選に向けた会員候補者及び連携会員候補者の選考のうち、人文・社会科学分野に関すること	第一部の会員のうち、副会長、役員、委員会の委員並びに分野別委員会の委員長及び副委員長
生命科学選考分科会	平成26年10月の改選に向けた会員候補者及び連携会員候補者の選考のうち、生命科学分野に関すること	第二部の会員のうち、副会長、役員、委員会の委員並びに分野別委員会の委員長及び副委員長
理学・工学選考分科会	平成26年10月の改選に向けた会員候補者及び連携会員候補者の選考のうち、理学・工学分野に関すること	第三部の会員のうち、副会長、役員、委員会の委員並びに分野別委員会の委員長及び副委員長

(庶務)

第3 委員会の庶務は、事務局企画課において処理する。

(雑則)

第4 この要綱に定めるもののほか、議事の手続その他委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

(提案3)

分野別委員会運営要綱(平成23年9月1日日本学術会議第133回幹事会決定)の一部を次のように改正する。

改正後					改正前				
別表第1					別表第1				
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	備考	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	備考
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
健康・生活科学委員会	健康・生活科学委員会看護学分科会	1. 社会における新たな看護ニーズに対応した課題 2. 看護に関する基礎・継続・卒後教育の検討 3. 看護学分野における教育課程編成上の参照基準の検討 に係る審議に関すること	25名以内の会員又は連携会員		健康・生活科学委員会	健康・生活科学委員会看護学分科会	・社会における新たな看護ニーズに対応した課題 ・看護に関する基礎・継続・卒後教育の検討	25名以内の会員又は連携会員	
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)
歯学委員会	歯学委員会歯学教育分科会	1. 臨床基礎実習、臨床実習、並びに関連医学教育の配分等、歯学教育カリキュラムのあり方 2. 卒後臨床研修との関係 3. 歯学分野における教育課程編成上の参照基準の検討 に係る審議に関すること	20名以内の会員又は連携会員	設置期間:平成23年11月16日～平成26年9月30日	歯学委員会	歯学委員会歯学教育分科会	1. 臨床基礎実習、臨床実習、並びに関連医学教育の配分等、歯学教育カリキュラムのあり方に係る審議に関すること 2. 卒後臨床研修との関係に係る審議に関すること	20名以内の会員又は連携会員	設置期間:平成23年11月16日～平成26年9月30日
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)
薬学委員会	薬学委員会薬学教育分科会	1. 我が国の薬学における創薬力及び育薬力を高めるため、6年制及び4年制薬学学部教育及びそれぞれに基礎を置く大学院教育が現在直面している諸問題 2. 薬学分野における教育課程編成上の参照基準の検討 に係る審議に関すること	20名以内の会員又は連携会員	設置期間:平成23年10月28日～平成26年9月30日	薬学委員会	薬学委員会薬学教育分科会	我が国の薬学における創薬力及び育薬力を高めるため、6年制及び4年制薬学学部教育及びそれぞれに基礎を置く大学院教育が現在直面している諸問題に係る審議に関すること	20名以内の会員又は連携会員	設置期間:平成23年10月28日～平成26年9月30日
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

健康・生活科学委員会 分科会の設置について

分科会等名：看護学分科会

1	所属委員会名	健康・生活科学委員会
2	委員の構成	25名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>少子高齢社会におけるケアの課題は山積しているが、特に高齢者・障害者・小児などへの看護援助、僻地医療や災害後の中期・長期的支援体制、介護予防等のための地域ケア体制、新たな感染症や慢性疾患等への取り組み、および先進医療における高度実践看護師の役割拡大などが緊急の課題である。また、国際的な問題である看護師の人材不足と移民等の看護現場の課題に対して検討を行う。これらの検討をもとに保健医療福祉体制への改革提案をまとめる。また、保健医療福祉現場と看護教育の乖離が世界的な課題であり、看護教育のあり方について、卒後教育や学際的教育を含めて検討を行う。</p> <p><u>加えて、大学教育の分野別質保証に資するために、看護学分野における教育課程編成上の参照基準の検討を行う。</u></p>
4	審議事項	<p>(1) 社会における新たな看護ニーズに対応した課題</p> <p>(2) 看護に関する基礎・継続・卒後教育の検討</p> <p><u>(3) 看護学分野における教育課程編成上の参照基準の検討</u></p>
5	設置期間	<p>時限設置</p> <p>常設</p>
6	備考	<p>※調査審議事項の追加</p> <p>看護学分野における教育課程編成上の参照基準の検討を行うこととしたため。</p>

歯学委員会 分科会の設置について

分科会等名： 歯学教育分科会 _____

1	所属委員会名	歯学委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>今日における我が国の歯学教育は、少子高齢化の急速な進行や健康に対する情報の氾濫などに代表される社会の変化、歯学研究・歯科医療の進展に的確かつ迅速に対応する必要に迫られている。これらの問題について審議するため、第21期において「歯学教育分科会」を設置し、審議を行った。その内容を取りまとめ、「報告」として公表したが、審議期間が短かったため、教育内容やカリキュラム、教育方法などについて十分に審議されていない箇所がある。そこで、本分科会を再度設置し、他分野の教育分科会とも連携し、21世紀の歯科医学及び歯科医療を発展させるのに不可欠な歯科医学教育に関する審議を行うことを目的とする。また、将来の歯科医学を背負う人材の育成も目指すための方策についても検討する。</p> <p><u>加えて、大学教育の分野別質保証に資するために、歯学分野における教育課程編成上の参照基準の検討を行う。</u></p>
4	審議事項	<p>臨床基礎実習、臨床実習、並びに関連医学教育の配分等、歯学教育カリキュラムのあり方について審議する。また、卒後臨床研修との関係についても審議する。</p> <p><u>加えて、歯学分野における教育課程編成上の参照基準を検討する。</u></p>
5	設置期間	<p>時限設置平成23年11月16日～平成26年9月30日</p> <p>常設</p>
6	備考	<p>※調査審議事項の追加</p> <p>歯学分野における教育課程編成上の参照基準の検討を行うこととしたため。</p>

薬学委員会 分科会の設置について

分科会等名： 薬学教育分科会

1	所属委員会名	薬学委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>医療の高度化に対する社会の要請に対応するため、6年制及び4年制薬学学部教育を基盤とした薬学人養成体系について検討するとともに、創薬研究者・技術者、薬剤師、臨床（育薬）研究者、環境衛生分野や行政で活躍する人材などを含み、魅力ある医療人を育てるための諸方策を推進する。</p> <p><u>加えて、大学教育の分野別質保証に資するために、薬学分野における教育課程編成上の参照基準の検討を行う</u></p>
4	審議事項	<p>我が国の薬学における創薬力及び育薬力を高めるため、6年制及び4年制薬学学部教育及びそれぞれに基礎を置く大学院教育が現在直面している諸問題に係る審議に関すること。</p> <p><u>加えて、薬学分野における教育課程編成上の参照基準を検討する。</u></p>
5	設置期間	<p>時限設置平成23年10月28日～平成26年9月30日</p> <p>常設</p>
6	備考	<p>※調査審議事項の追加</p> <p>薬学分野における教育課程編成上の参照基準の検討を行うこととしたため。</p>

【分野別委員会】

○委員の決定（新規1件）

（心理学・教育学委員会 教育学分野の参照基準検討分科会）

氏名	所属・職名	備考
秋田喜代美	東京大学大学院教育学研究科教授	第一部会員
金子 元久	筑波大学大学研究センター教授	第一部会員
佐藤 学	学習院大学文学部教授	第一部会員
鈴木 晶子	京都大学大学院教育学研究科教授	第一部会員
今井 康雄	日本女子大学人間社会学部教授	連携会員
大桃 敏行	東京大学大学院教育学研究科教授	連携会員
小玉 亮子	お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科教授	連携会員
志水 宏吉	大阪大学大学院人間科学研究科教授	連携会員
長崎 栄三	前静岡大学教育学部教授	連携会員
広田 照幸	日本大学文理学部教授	連携会員
藤田 英典	共栄大学教育学部長	連携会員
藤村 宣之	東京大学大学院教育学研究科教授	連携会員
宮寺 晃夫	筑波学院大学経営情報学部教授	連携会員

提案4～5は提言等関係のため別添2～3を御覧ください。

(提案6)

日本学術会議協力学術研究団体規程(平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定)の一部を次のように改正する。

改正後	改正前
<p>別表第3(第2項関係) (表)略 (注1)～(注5)略</p> <p>※「研究者」の具体的範囲は以下のとおりとする。</p> <p>① 大学、高等専門学校、大学共同利用機関等において研究に従事する者</p> <p>② 国立試験研究機関、特殊法人、及び独立行政法人等において研究に従事する者</p> <p>③ 地方公共団体の試験研究機関等において研究に従事する者</p> <p>④ 公益財団法人、公益社団法人、一般財団法人、一般社団法人等において研究に従事する者</p> <p>⑤ 民間企業において研究に従事する者</p> <p>⑥ その他、高度の専門性を有し、職務として研究に従事する者(①～⑤の非常勤職に就く者を含む)又は当該研究分野に関し、優れた業績を有する者</p>	<p>別表第3(第2項関係) (表)略 (注1)～(注5)略</p> <p>※「研究者」の具体的範囲は以下のとおりとする。</p> <p>① 大学、高等専門学校、大学共同利用機関等において研究に従事する者</p> <p>② 国立試験研究機関、特殊法人、及び独立行政法人等において研究に従事する者</p> <p>③ 地方公共団体の試験研究機関等において研究に従事する者</p> <p>④ 公益財団法人、公益社団法人、一般財団法人、一般社団法人等において研究に従事する者</p> <p>⑤ 民間企業において研究に従事する者</p> <p>⑥ その他、高度の専門性を有し、職務として研究に従事する者(①の非常勤職に就く者を含む)又は当該研究分野に関し、優れた業績を有する者</p>

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

(提案7)

日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込みがあった団体の概要

団体名	団体概要
日本子ども家庭福祉学会	国内外の歴史、現状、動向をふまえつつ、国連子どもの権利条約を基調に子どもと親のウェルビーイング（個の尊重・自己実現）を促進するための子ども家庭福祉制度のあり方を研究、議論する場、子どもや親の意見を社会的に代弁する場を設定する学会。1999年に発足。社会福祉現場の方々とのかかわりを深めるべく、現場向けワークショップを開催している。また、既指定団体の日本社会福祉学会などが加入する日本社会福祉系学会連合に加入し、福祉関係の他学会との連携を深めている。事務局は新宿区のアカデミーセンターにおいている。
音楽学習学会	生涯にわたる音楽学習の理論的・実践的研究の振興につとめ、会員相互の研究上の交流を図ることを目的とするとして、2005年に設立された学会。2013年は、中国亜州芸術教育協会と合同で茨城大学において研究大会を開催した。日本教育学会、音楽教育実践学会と協力関係にある。事務局は埼玉大学においている。
数理経済学会	数理経済学は、戦後まもなく、今日主流である新しい経済学が流入した時代から、一般均衡理論、最適成長論、産業連関論など、経済学理論の骨格をなす理論研究の分野としてその名称が定着。近年では、経済学理論全般にわたり、理論、骨格の高度な抽象化ならびに数学化が行われるとともに、ファイナンスや数理統計分野を通じて、理工系の学問分野、基礎的な数学研究とも、深く関連している。日本数学会、日本経済学会（既指定団体）とも連携している。2013年、「数理経済学研究センター（1997年発足）」から「数理経済学会」と名称を改め、事務局を慶応大学経済学部へ置き、活動している。
日本ヘルスプロモーション理学療法学会	理学療法士や健康増進に関わるコ・メディカルを中心として、2011年に設立された学会。リハビリテーション医療の中心的役割を担ってきた従来の理学療法に加え、疾病予防や介護予防、健康増進を含んだ包括的な理学療法を「ヘルスプロモーション理学療法」と定義し、その普及に努める。また、本学会は保健・医療・福祉におけるシステムの再編並びに統合と、マンパワーの開発を念頭に置き、理学療法の新たなアプローチを基軸とし、ヘルスプロモーションの理論的研究と、その実践を行うことを目的としている。事務局は西九州大学においている。

日本核磁気共鳴学会	核磁気共鳴（外部静磁場に置かれた原子核が固有の周波数の電磁波と相互作用する現象）に関する基礎・応用研究、並びに啓蒙・教育活動を推進し、日本における核磁気共鳴研究の発展に寄与することを目的とする。日本生化学学会、日本分子生物学会、日本分光学会（既指定団体）等とも連携している。核磁気共鳴技術を応用した医療機器の開発研究などに取り組んでいる。
東海社会学会	東海地域内での社会学を専門とする研究者間での交流を活発化するため設立された学会。社会学研究者間の交流を活性化する土台が出来上がったことを踏まえ、近接領域の研究者との交流・共同研究を促すとともに、東海地域内の社会的課題に応える研究活動の取り組みを前進させていく。指定後は、既指定連合体「社会学系コンソーシアム」に加入を予定。
観光学術学会	現状において日本の観光研究は実学的な傾向が強いとして、理論的な研究を推進するために設立された学会。若手研究者の育成、教育や社会への還元を目的としている。日本地理学会、人文地理学会、日本観光研究学会（既指定団体）などと出版物や共同の研究会というレベルで、連携している。
関東森林学会	2011年に日本森林学会（既指定団体）から独立した組織。もともとは、日本森林学会関東支部として活動していた。関東地域（関東6県、山梨・新潟県）を中心に森林・林業に関する学術的並びに実際的な調査研究を行い、会員相互の研究交流の促進、及び技術の向上並びに研鑽を図り、森林の保全、林業の発展に寄与している。母体である日本森林学会とは連携して諸事業を実施している。
日本情報考古学会	考古学におけるパーソナルコンピューターの利用の現状と考古学における計量分析をメインテーマに研究をこれまで進めており、現在は、考古学研究以外にもコンピュータサイエンス、統計学、鉱物学、植物学などの関連諸科学と連携し、従来と異なる視点からの考古学研究を進めている。日本考古学協会（既指定団体）と連携して、事業を行っている。

(提案 8)

地区会議運営協議会委員の追加の決定について

○中国・四国地区会議運営協議会委員の追加について（追加委員）

氏名	所属・職名	備考
白石 友紀	岡山県農林水産総合センター生物科学研究所 所長	連携会員

【参考】

●日本学術会議地区会議運営要綱（抄）

（地区会議運営協議会及び事務局）

第6 各地区に地区会議運営協議会を置き、当該地区の運営及び活動に関する事項を審議・決定する。

2 各地区に所属する会員は、互選により9名以内の地区会議運営協議会委員を選出する。その際、委員が特定の部に偏らないように配慮する。ただし、地区会議運営協議会から科学者委員会に要請があった場合は、科学者委員会及び幹事会の議を経て、当該地区に所属する会員又は連携会員の中から地区会議運営協議会委員を追加することができる。なお、委員の追加を認める場合も地区会議運営協議会の委員総数は12名を超えないものとする。

提案9は別添なし。

(提案10)

第14回アジア学術会議代表派遣及び招へい者

○日本学術会議代表

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備考
			計			
1	第14回アジア学術会議	6月17日 ～ 6月19日	3日	クアラルンプール マレーシア	大西 隆 第三部会員 豊橋技術科学大学学長	アジア学術会議加盟国理事として理事会等に参加するため
2	第14回アジア学術会議	6月17日 ～ 6月19日	3日	クアラルンプール マレーシア	春日 文子 第二部会員 国立医薬品食品衛生研究所安全情報部長	アジア学術会議総会等に代表の一人として参加するため
3	第14回アジア学術会議	6月17日 ～ 6月19日	3日	クアラルンプール マレーシア	吉野 博 第三部会員 東北大学名誉教授	アジア学術会議総会等に代表の一人として参加するため
4	第14回アジア学術会議国際シンポジウム	6月18日 ～ 6月19日	2日	クアラルンプール マレーシア	安成 哲三 第三部会員 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 所長	発表者(コーディネーター級の役割を持つ者)として国際シンポジウムに参加するため ※旅費については、総合地球環境学研究所負担
5	第14回アジア学術会議国際シンポジウム	6月18日 ～ 6月19日	2日	クアラルンプール マレーシア	黒川 清 特任連携会員 政策研究大学院大学アカデミックフェロー	基調講演者として国際シンポジウムに参加するため

○基調講演招へい者

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備考
			計			
1	第14回アジア学術会議国際シンポジウム	6月18日 ～ 6月19日	2日	クアラルンプール マレーシア	Harsh K. Gupta Member, National Disaster Management Authority (インド)	基調講演者として国際シンポジウムに参加するため

Program of 14th SCA Conference

June 17th, Tuesday

Venue: Istana Hotel

Time	Program	Venue
8:00-	Registration	
9:00-10:00	SCA Management Board Meeting I	SAFIR II · III
10:00-10:30	Morning Break	
10:30-12:30	General Assembly Session I	SAFIR II · III
12:30-14:00	Lunch	
14:00-17:00	<p>SCA Joint Project Workshops <i>A series of presentations of ongoing research projects between Malaysia and Japan</i></p> <p>14:00-14:10 Introduction of SATREPS</p> <p>14:10-15:00</p> <p>1) "Project for Development of Low Carbon Society Scenarios for Asian Regions" Prof. Dr. Ho Chin Sion, Project Manager/Director of Office of International Affairs, Universiti Teknologi Malaysia</p> <p>15:00-15:50</p> <p>2) "Research and Development for Reducing Geo-Hazard Damage in Malaysia caused by Landslide and Flood" Dr. Habibah Hj. Lateh, Professor/ Univerisiti Sains Malaysia</p> <p>15:50-16:10 Break Time</p> <p>16:10-17:00</p> <p>3) "Project on Promotion of Green Economy with Palm Oil Industry for Biodiversity Conservation" Prof. Mohd. Ali Hassan, Universiti Putra Malaysia</p>	SAFIR II · III
19:00-	Appreciation Dinner - Hosted by SCJ	MAHKOTA III

June 18th, Wednesday

Venue: Istana Hotel

Time	Program	Venue
8:00-	Registration	

9:00-17:00	SCA International Symposium "Future Earth: Research for Global Sustainability and a Holistic Understanding of Sustainable Development in Asia"	BALLROOM
9:00-9:10	Welcoming Remarks Prof. Emeritus Dr. Mohd Nordin Hasan, President, Science Council of Asia	
9:10-10:30	Keynote SESSION I	
	9:10-9:40 1)Prof. Dr. Kiyoshi Kurokawa (Japan) 9:40-10:10 2)Prof. Dr. Harsh K. Gupta (India) 10:10-10:30 Question and Answer	BALLROOM
9:10-10:30	POSTER SESSSION (Refreshment/Tea Break)	
10:30-13:00	Symposium A "Policy Brokering of Community Knowledge for Sustainability Transition in Indonesia, Japan, Philippines, Malaysia and Thailand" Asian Public Intellectuals Fellowships (API), The Nippon Foundation	BALLROOM
	Symposium B "Toward establishing a common "nucleus" among the Eight Stakeholder Groups : Education /Capacity Building for Future Earth" Center for Sustainability Science, Hokkaido University	ROOM 1
	Global Development Session 1	ROOM 2
	Dynamic Planet Session 1	ROOM 3
13:00-14:00	POSTER SESSSION (Lunch Break/Prayer)	
	Symposium C "Transition towards urban region sustainability" Institute for The Environment and Development (LESTARI), Universiti Kebangsaan Malaysia	BALLROOM
14:00-17:00	Symposium B "Toward establishing a common "nucleus" among the Eight Stakeholder Groups : Education /Capacity Building for Future Earth" Center for Sustainability Science, Hokkaido University	ROOM 1
	Symposium D "IMPACT OF DEVELOPMENT TO HUMAN HEALTH: Fostering sustainable trans-disciplinary capacity in respond to emerging threats of the ecosystem to human health"	ROOM 2

	Malaysia Society of Environmental Epidemiology (MySEE)	
	Transformation Towards Sustainability Session 1	ROOM 3
17:00-	Conference High Tea	
17:30-18:30	SCA Management Board Meeting Session II	SAFIR II · III

June 19th, Thursday

Venue: Istana Hotel

Time	Program	Venue
9:00-17:00	SCA International Symposium "Future Earth: Research for Global Sustainability and a Holistic Understanding of Sustainable Development in Asia"	
9:00- 10:20	KEYNOTE SESSION 2 9:00-9:30 1) Prof. Emeritus Dato' Dr. Ibrahim Komoo FASc (Malaysia) 9:30-10:00 2) Prof. Dr. Takashi Onishi (Japan) 10:00-10:20 Question and Answer	BALLROOM
10:20-11:00	POSTER SESSSION (Refreshment/Tea Break)	
	Symposium E "Sustainability, Inclusivity and Community Empowerment" University of Malaya Sustainable Development Solutions Network (UM-SDSN)	BALLROOM
11:00-13:00	Global Development Session 2	ROOM 1
	Transformation Towards Sustainability Session 2	ROOM 2
	Dynamic Planet Session 2	ROOM 3
13:00-14:00	Lunch Break/Prayer	

14:00-16:00	PLENARY DISCUSSION ”Future Earth: Global Sustainability and a Holistic Understanding of Sustainable Development in Asia” Prof. Dr. Yasunari Tetsuzo – Moderator Prof Dr. Kiyoshi Kurokawa Prof. Dr. Harsh K. Gupta Prof Emeritus Dato’ Dr. Ibrahim Komoo Professor Dr. Takashi Onishi	BALLROOM
16:00-17:00	Question and Answer	BALLROOM
16:00-17:00	Conference Summary and Closing Prof. Emeritus Dato’ Dr. Zakri Abdul Hamid (TBC)Science Advisor to Prime Minister of Malaysia	BALLROOM
17:00-	Tea and Departures	
17:30-18:30	General Assembly Session II	SAFIR II・III

提案 11～22 はシンポジウム等関係のため別添 4 を御覧ください。

提案 23～24 は別添なし。